

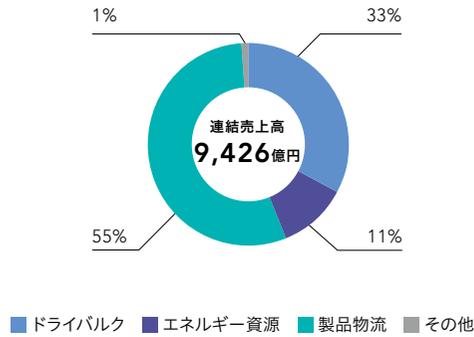
セグメント	事業	事業概要
ドライバルク	鉄鋼原料事業／バルクキャリア事業	鉄鋼原料、鉄鋼製品(鋼材)、製紙原料、穀物、石炭などの梱包しない大量の乾貨物をばら積み(バルク)輸送する事業。日本向けの輸送に加え、韓国、中国、インドや中東のほか、大西洋水域での三国間輸送も積極的に展開。ドライバルク事業ユニットでは風力利用やバイオ・LNG・メタノール・アンモニア燃料など低・脱炭素化に挑戦している。
	油槽船事業／燃料事業	原油やLPG(液化石油ガス)など、石油関連の海上輸送を行う事業。1935年に初の大型タンカー、1974年に初のLPGタンカー、2023年はLPG／重油の二元燃料且つLPG／アンモニア兼用輸送船を竣工させ、国内外顧客向けにグローバルな事業を展開。燃料事業においては燃料(重油、軽油、LNG、バイオ燃料等)調達に加え、LNG・アンモニア燃料供給事業や液化水素運搬船の事業検討にも取り組み、環境負荷の低減に貢献。
エネルギー資源	電力・海洋事業	電力事業では、当社が独自に開発した船隊「コロナシリーズ」により、日本国内と台湾の電力会社向けの石炭を主にオーストラリアやインドネシアから輸送。海洋事業では、ブラジル沖でドリルシップ、ガーナ沖でFPSO(浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備)が稼働。
	LNG船事業／カーボンニュートラル推進事業	LNG船事業は世界的に需要が広がるLNGの輸送をグローバルに提供するほか、LNGバリューチェーンにおける顧客ニーズへの対応にも取り組む。カーボンニュートラル推進事業では、洋上風力発電支援船事業(支援船・輸送船)、CO ₂ 回収・利用・貯留(CCUS)事業、燃料転換関連事業などを推進。
製品物流	自動車船事業	1970年に日本初の自動車専用船を開発・運航開始以来、乗用車やトラックを中心に高品質な輸送サービスをグローバルに展開。また、50年の歴史で培ったノウハウをもとにRORO貨物(シャーシなどを使い荷役される貨物)の輸送も強化。2020年度よりLNG燃料自動車専用船を就航し、環境負荷低減にも配慮した船隊整備に取り組む。
	物流・港湾事業	“K” LINEグループ各社のノウハウとサービスネットワークを結集し、海上貨物輸送に加え航空貨物輸送、曳船、陸上輸送、倉庫事業、自動車部品から完成車まで扱う自動車物流等、お客さまのさまざまなニーズに応えた総合物流事業を展開。国内4港(東京、横浜、大阪、神戸)でコンテナターミナルも運営。
	近海・内航事業	川崎近海汽船株式会社では、フェリー、RORO船、鉄鋼向け石灰石専用船、電力向けの石炭専用船、一般貨物船などで国内の海上輸送に従事。アジア発着の貨物向けに一般貨物船やバルク船も運航。また、日本近海におけるオフショア支援船事業にも参入し事業の充実を拡充。
	コンテナ船事業	2018年4月以降、邦船3社で設立したOcean Network Express(ONE)に統合。現在は152万TEU・200隻超のコンテナ船隊を運航し、世界120ヶ国以上をカバーする充実したサービスネットワークを通じて信頼性が高く迅速な国際輸送サービスを提供。
その他		船舶管理業、旅行代理店業、不動産賃貸・管理業など。

主な船型	主要貨物
ケープサイズ	鉄鉱石、原料炭、ボーキサイト
バナマックス	
ハンディサイズ	一般炭、鉄鉱石、穀物、塩、ニッケル、鋼材、アルミナなど
スモールハンディ	
チップ	木材チップなど

主な船型	主要貨物・従事する輸送
原油タンカー／VLCC	原油
原油タンカー／AFRAMAX	
LPG船	液化石油ガス(プロパン・ブタン)
LNG燃料供給船	船舶用LNG燃料
電力炭船	一般炭(発電用石炭)など
ドリルシップ	浮体式海洋掘削装置
FPSO	浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備
LNG船	液化天然ガス

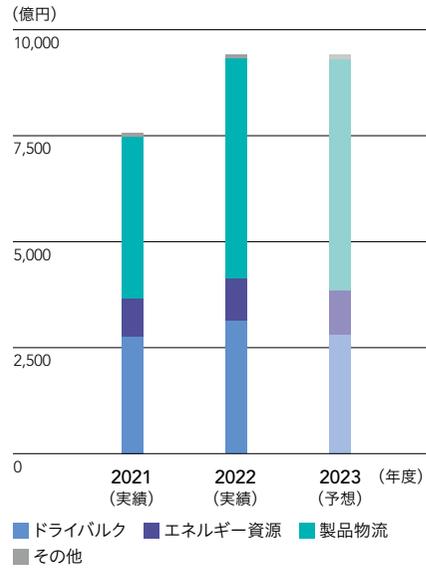
主な船型	主要貨物
自動車専用船	一般車両(乗用車など)、大型車両(バス・トラックなど)、重車両・建設機械・農業機械、非自走貨物など
近海・内航船 ROLO船	原料炭、石灰石、鋼材、バイオマス発電燃料、紙製品、業務用食品、建設資材など
コンテナ船	日用品など一般消費財、部品など工業製品、精密機器、加工済み食品、製材済みの木材、原材料素材などドライカーゴ、冷凍食品など

■ セグメント別 売上高構成比 (2022年度)

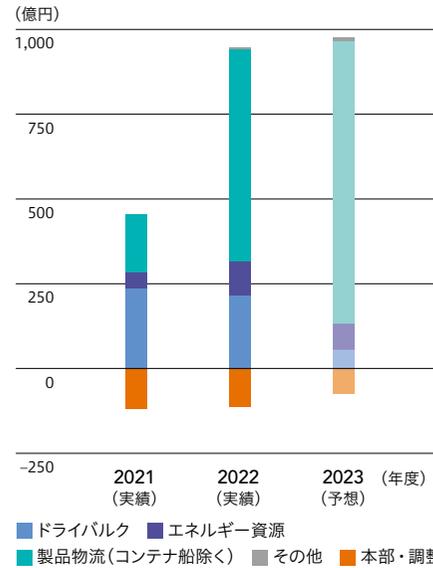


*1 エネルギー資源セグメントには、油槽船・燃料、電力・海洋、LNG船、カーボンニュートラル推進事業を含む。
 *2 製品物流セグメントには、自動車船、物流、港湾、近海・内航、コンテナ船事業を含む。

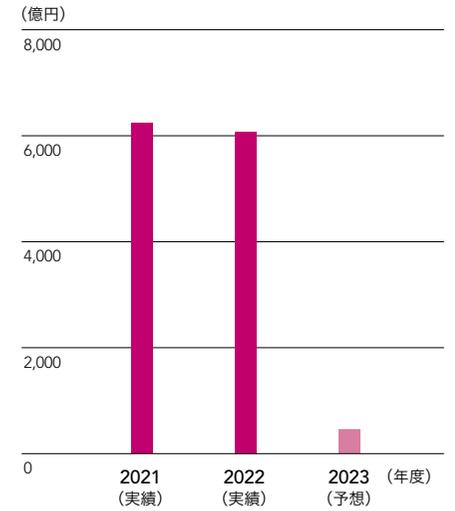
■ セグメント別 売上高



■ セグメント別 経常損益(自営事業)

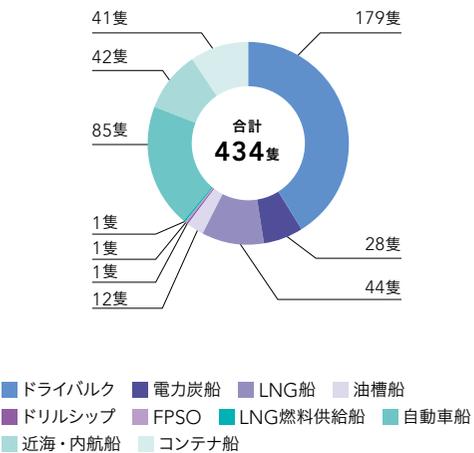


■ コンテナ船事業 経常損益



* セグメント別売上高、セグメント別経常損益(自営事業)、コンテナ船事業経常損益の各2023年度予想は、2024年2月時点。

■ グループ運航船舶隻数 (2023年3月末)

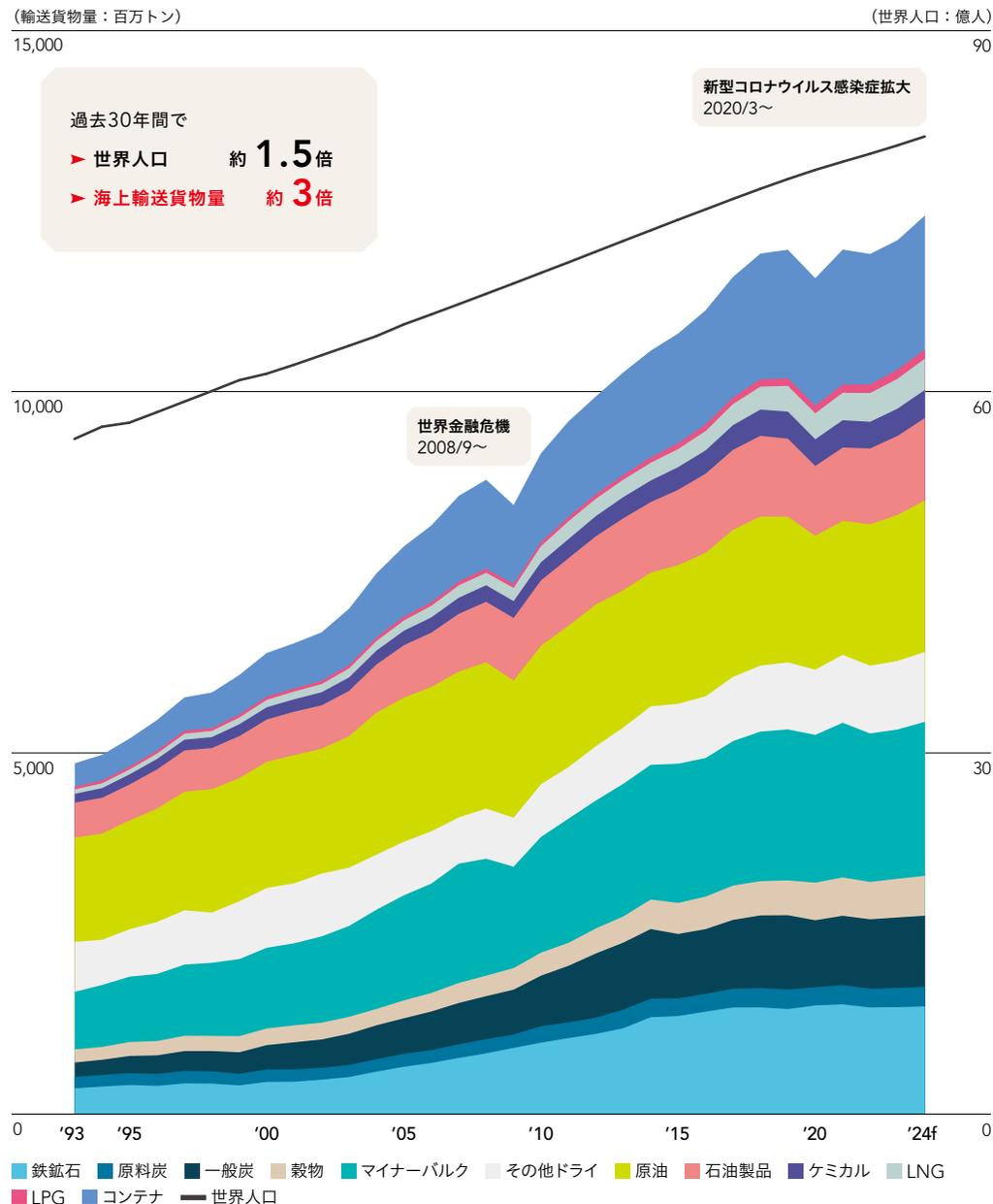


■ グループ運航船舶推移

船種	2021年3月末時点						2022年3月末時点						2023年3月末時点					
	所有船		備船		合計		所有船		備船		合計		所有船		備船		合計	
	隻数	重量トン																
ドライバルク	52	6,290,705	129	16,796,331	181	23,087,036	48	5,888,871	126	16,601,473	174	22,490,344	50	6,119,663	129	16,509,739	179	22,629,402
電力炭船	6	527,434	21	1,891,180	27	2,418,614	8	702,581	23	2,059,852	31	2,762,433	8	702,507	20	1,805,786	28	2,508,293
LNG船	42	3,579,351	2	152,272	44	3,731,623	41	3,499,795	2	152,272	43	3,652,067	43	3,590,640	1	77,163	44	3,667,803
油槽船	11	1,719,494	5	776,868	16	2,496,362	11	1,658,699	4	722,598	15	2,381,297	9	1,869,817	3	410,808	12	2,280,625
オフショア支援船	6	29,186	0	—	6	29,186	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
ドリルシップ	1	—	0	—	1	—	1	—	0	—	1	—	1	—	0	—	1	—
FPSO	1	—	0	—	1	—	1	—	0	—	1	—	1	—	0	—	1	—
LNG燃料供給船	1	2,431	0	—	1	2,431	1	2,431	0	—	1	2,431	1	2,431	0	—	1	2,431
自動車船	33	442,571	46	854,046	79	1,296,617	33	446,112	50	916,112	83	1,362,224	31	439,338	54	974,458	85	1,413,796
近海・内航船	25	235,937	18	235,986	43	471,923	25	233,488	19	255,558	44	489,046	24	234,374	18	171,304	42	405,678
コンテナ船	7	460,448	36	3,503,346	43	3,963,794	11	849,856	30	2,970,195	41	3,820,051	11	849,856	30	2,970,195	41	3,820,051
合計	185	13,287,557	257	24,210,029	442	37,497,586	180	13,281,833	254	23,678,060	434	36,959,893	179	13,808,626	255	22,919,453	434	36,728,079

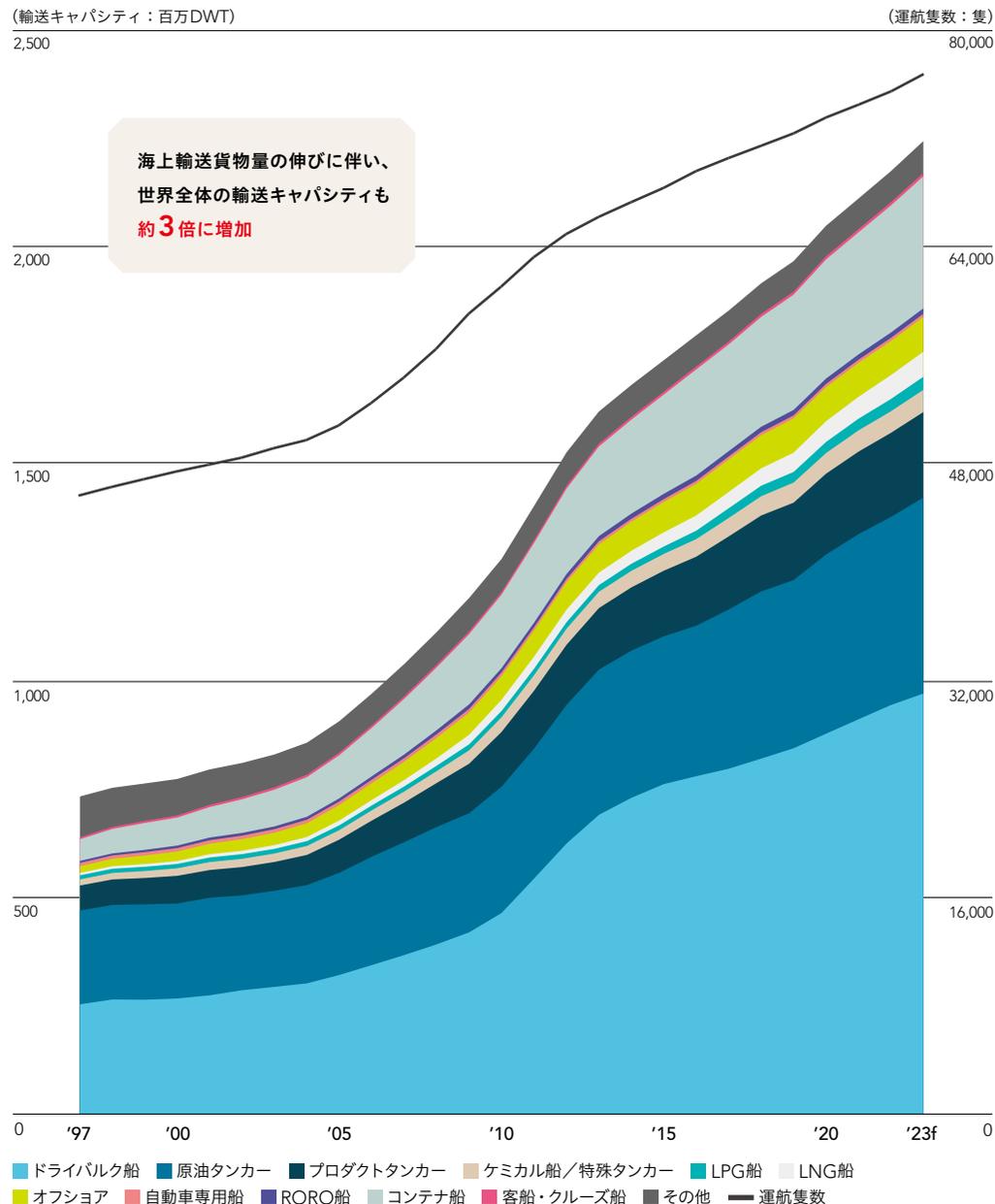
* 所有船の隻数は共有船を含み、重量トン数は共有船の当該船舶における他社持分を含んでいます。
 * 隻数には基幹船隊に加え、期末時点の短期・スポット備船も含まれます。

世界の主要海上輸送貨物量と世界人口



Shipping Review & Outlook March 2023、総務省データベースほかより当社作成

世界全体の輸送キャパシティと運航隻数



Shipping Review & Outlook March 2023より当社作成